



255

小学校高学年向け

年組

2025年3月20日付・下野新聞22面

記事は加工しています

本県のイチゴ生産拡大の源流は足利に？

足利市内の国道50号で車を走らせると「栃木県いちご発祥の地足利」と書かれた看板が目に入った。恥ずかしながら、「イチゴといえば真岡市と鹿沼市」との認識しかなかったため、驚きだった。なぜ足利が発祥の地で、どのように県内に広がっていったのか。イチゴ生産量56年連続日本一の「いちご王国」の源流を探った。

(福田恭佳)

足利

栃木市大塚町の県農業総合研究センターいちご研究所の三井俊宏特別研究員によると、県内でイチゴの栽培が本格的に始まったのは戦後間もない頃。当時、宇都宮市などでもイチゴは栽培されていたというが、足利郡御厨町(現足利市)の仁井田一郎(1912〜75年)が県内で初めて産地化を図ったという。

地域の農業振興を目指していた仁井田が、収益性の高いイチゴに着目したことが始まりという。当時、イ



113

チゴ栽培は神奈川県が北限とされていた。しかし、仁井田はイチゴ栽培の先進地だった同県と静岡県を訪れ、何軒も地元農家を回り、根気強く栽培方法や技術を学んだという。

学んだ方法は、自身の所有するほ場で試した。温室などを使用せずに屋外で栽培する露地栽培や、斜面や風当たりの少ない場所に石垣を積み、その上で栽培する石垣栽培など、本県の自然条件に合う栽培方法を探索し続けた。

王国礎築いた仁井田一郎



中でも、低温にさらすと早く花が咲くというイチゴ

の苗の特性を生かし、日光市の戦場ヶ原で行った高冷地育苗によって、イチゴの収穫時期を従来の6月ごろから1、2月に早めることに成功した。

仁井田は苦勞の末に確立した栽培方法も、希望者には惜しげもなく教えたとい

い、1950年代には県内でイチゴ栽培が拡大。県もイチゴの研究に力を入れるようになり、本県は68年に初めて生産量日本一とな

った。三井さんは「仁井田さんがいなかったら、今のいちご王国はなかったかも知れませんね」とうなずいた。

足利市では大久保町のJA足利アグリランドで、5月中旬ごろまでイチゴ狩りが楽しめるという。生産量の県内トップ勢こそ他市町に譲るものの、足利には由緒正しい栽培のいきさつがあった。いちご王国の歴史に思いをはせながら、発祥の地でイチゴを楽しんでみてはいかがだろうか。

(毎週水、木、金曜掲載。県南版は木曜)

設問

【1】本記事の線①「源流」と似た意味で使われている記事中の言葉は次のうちどれですか。正しいものを一つ選び、記号で答えましょう。

ア 生産 イ 地域 ウ 発祥 エ 農業

【2】次の文章(1)(2)の栽培方法は何といいますか。記事から読み取り、それぞれの文章に合う栽培方法をくから選んで書きましょう。

(1) 温室などを使用せずに屋外で栽培する方法。

(2) 斜面や風当たりの少ない場所に石垣を積み、その上で栽培する方法。

〈石垣栽培、施設栽培、水耕栽培、プランター栽培、露地栽培〉

【3】記事から読み取れることは次のうちどれですか。正しいものを一つ選び、記号で答えましょう。

ア 栃木県はイチゴの生産量が50年以上連続日本一である。

イ 栃木県のイチゴには、多くの種類があり、ブランド化されている。

ウ イチゴは、福岡県でも栽培が盛んである。

エ 足利市は、栃木県の中でもイチゴの生産量が1位である。

【4】線②「なぜ足利が(イチゴの)発祥の地で、どのように(栃木)県内に広がっていったのか。」の答えを、2人が話し合っています。次の会話を読んで問いに答えましょう。

とうまさん 栃木県内では、戦後間もなくイチゴの栽培が始まったそうだよ。だれか、イチゴの栽培を広めようとした人がいたのかな？

しおりさん (A)さんが県内で初めてイチゴの産地化を図ったそうだよ。

とうまさん 何事も一から始めるのは大変そうだね。

(A)さんは、どんな努力をしたのかな？

しおりさん 何軒も農家を回り、(B)を学んだり、栃木県の自然条件に(C)たりしたそうだよ。

とうまさん さらに、苦勞の末に確立した方法も、(D)そうだよ。

しおりさん なるほど。足利がイチゴ発祥の地になったのは、(A)さんの多くの努力や工夫で栃木県内に広まったからだね。

(1) (A)に当てはまる人物名を記事の中から探して書き抜きましょう。

(2) (B)に当てはまる言葉を11字で、(C)に当てはまる言葉を12字で、(D)に当てはまる言葉を14字で、記事中の言葉からそれぞれ書き抜きましょう。